

【NA】成人看護学実習(急性期)		看護学科		3年前期			
		3単位	必修	実習	135時間		
教員	柵橋 千弥子・大澤 伸治・安藤 洋子・柴田 由美子・柴原 美和						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	柵橋千弥子(看護師16年)、大澤伸治(看護師10年)、柴田由美子(看護師9年)、安藤洋子(看護師28年)						
授業内容	急性期あるいは回復期にある対象とその家族の特徴を理解し、問題解決のため対象に応じた看護を計画的に実践・評価する能力を養う。						
授業方法	少人数のグループとなって学外の医療機関において実習を行う。学生は原則2名で1名の対象者を受けもち看護過程を展開する。尚、実習にあたっては、実習指導者および大学教員の指導のもと行う。						
到達目標	知識・理解	急性期あるいは回復期にある対象者とその家族の状況を述べるができる。					
	思考・判断・表現	対象の健康障害により生じた課題を把握し、回復過程に応じた看護過程を展開できる。					
	技能	看護計画に基づいて看護援助を実践できる。					
	関心・意欲・態度	医療チームの一員として、自己の役割を理解し責任を持った行動ができる。学生として適切な態度で実習に臨むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		16	24	-	-	40
	看護援助技術		-	-	20	-	20
	実習態度		-	-	-	30	30
	自己学習		-	-	-	10	10
	合計(点)		16	24	20	40	100
評価の特記事項							
テキスト	『看護診断ハンドブック 11版』リンダJ.カルペニート 医学書院ISBN:978-4-260-03451-7						
参考書・教材	人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ 1~5巻 医学書院 病気がみえる 1~7巻 MEDIC MEDIA						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<p>第1週の目標：急性期・回復期に行われる特徴的な看護実践を知り、その意味を理解する。 1) 学生1~2名で急性期にある患者を1名受け持ち、対象に看護必要な看護を考える。</p> <p>第2週の目標：急性期・回復期にある対象者の特徴を知り、看護過程の展開ができる。 1) 急性期・回復期にある対象を理解し、対象者にとって適切な援助の実践とその評価・修正を行う。</p> <p>第3週目の目標：実習での体験を整理し、他者と共有することで急性期看護についての学びを深める。 1) 看護過程の展開を継続し、実践した看護について評価する。 2) カンファレンスにより、グループメンバーと学びを共有する。</p> <p>方法：毎日の行動計画は、看護計画に基づき実習指導者・担当教員に確認してもらい許可のもと行動する。</p> <p>看護援助は学生単独でおこなわず、実習指導者、スタッフ等と共に実施する。 援助の前後は必ず実習指導者に報告を行う。 実習内容は、その日のうちに記録し翌日提出して担当教員よりの指導を受ける。また当日の実習内容に関する自己学習も提出する。</p>						
時間外での学修	急性期は、特に対象者の状況の変化が著しい領域であるため、毎日の実習終了後には振り返りを行い、翌日の援助を考えていくための学習が必要です。当日の記録および翌日からの計画、自己学習等に費やす時間は1日4時間程度は必要になります。						
受講学生へのメッセージ	実習を通して、対象者を全人的にとらえる能力を身につけましょう。 積み重ねた知識をもとに実践に結び付けることができるように積極的に実習に臨んで下さい。 特別な配慮が必要な学生は領域責任者に申し出てください。						

【NA】老年看護学実習		看護学科		3年通年			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	松原 薫・吉川 美保・水上 和典						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	松原薫（病院看護師20年）・吉川美保（病院看護師5年）・水上和則（病院看護師5年）						
授業内容	施設で生活する認知症を有する高齢者（以下、認知症高齢者とする）との関わりを通して、認知症高齢者を全人的に理解する。高齢者を支える多職種の役割、連携を知り、施設における看護師の役割について理解する。						
授業方法	施設において実習を行う。臨地実習指導者ならびに教員の指導を受けて実習を行う。						
到達目標	知識・理解	・パーソン・センタード・ケアの考えから認知症高齢者を理解し、持てる力を発揮できる援助につながるアセスメントができる。 ・施設の役割や提供されているサービス、そこで働く多職種の役割と連携方法について理解することができる。					
	思考・判断・表現	・人生の先輩である高齢者の意思を尊重した関わりをすることができる。					
	技能	・施設で生活する認知症高齢者の実際を知り、指導者とともに日常生活援助に参加することができる。					
	関心・意欲・態度	・看護学生として適切な態度や行動をとることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		20	20	5	-	45
	対象とのかかわり		10	10	5	-	25
	実習態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		30	30	10	30	100
評価の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習評価表に基づき評価する。 ・評価にあたっては臨地実習指導者の意見も参考にする。 ・提出物は指示期限内の提出を必須とする。 						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 「老年看護」「老年看護学 病態・疾患論」						
参考書・教材	適宜提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>「事前学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の仕組み、サービスの種類と特徴を復習する。 ・認知症の種類とそれぞれの特徴について復習する。 ・パーソン・センタード・ケアについて復習する。 ・実習施設の役割やそこで働く看護師および多職種の役割について復習する（5h） <p>「臨地実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険施設での実習を通して高齢者看護援助の実際を知る。 ・高齢者を取り巻く保健医療福祉チームについて学び、連携・協働を理解する。 ・認知症高齢者とのかかわりを通し、その言動からその人らしさを考え認知症高齢者を理解する。 ・カンファレンスを通して、実習での体験を共有し学びを深める。 <p>「実習のまとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習最終日は、グループごとに施設における看護の実際について資料を作成し、プレゼンテーションを行い学びを共有する。 <p>「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の実習内容はその日のうちに記録し翌日提出する。（2h/日） ・施設における看護の目的・役割、認知症高齢者の生活支援について学んだ内容を整理する。 <p>*詳細はオリエンテーションで説明します。</p>						
時間外での学修	既習の学修内容を復習、整理して実習に臨んでください。						
受講学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理に努め、感染対策の正しい知識を持って実習に臨んでください。主体的・積極的に学び、学生ならではの看護体験をしてください。 ・個人情報は実習綱領に則り慎重に取り扱ってください。 ・特別な配慮の必要な学生は申し出てください。 ・オフィスパワーは実習オリエンテーション時に通知します。 						

【NA】在宅看護論実習		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	北村 美恵子・井倉 一政・長谷川 真子						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	北村：病院看護師11年、訪問看護師・介護支援専門員4年 井倉：市町村保健師8年 長谷川：市町村保健師26年						
授業内容	保健・医療・福祉のケアニーズを持つ人々が住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるようにするために、地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種連携・協働を理解し、看護の役割を実践するための能力と態度を学ぶ。						
授業方法	訪問看護ステーションでは、看護師の訪問に同行し、ケアの見学および介助を行う。訪問事例は、5事例以上経験し、そのうち1事例は継続事例とする。継続事例については、カルテやケアプラン、訪問を通して情報を収集し、療養者およびその家族の看護課題を明らかにする。さらに、全体図を作成し、プレゼンテーションを行う。地域包括支援センターでは、相談・調整・訪問活動の見学、地域ケア会議や介護予防事業に参加する。						
到達目標	知識・理解	(1) 在宅看護の特徴について理解できる。 (2) 在宅療養者の特性に応じた援助方法が理解できる。 (2) 在宅療養者を介護する家族への支援の必要性が理解できる。 (3) 在宅療養を支える社会資源の必要性と活用について理解できる。 (4) 地域包括支援センターの機能と役割が理解できる。 (5) 地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種との連携・協働の必要性と看護職の役割が理解できる。					
	思考・判断・表現	(1) 対象者に必要な情報を収集し整理することができる。 (2) 対象者の病態と四側面（身体的、心理的、環境・生活、家族・介護状況）をアセスメントすることができる。 (3) 対象者の情報を統合し全体図に表すことができる。					
	技能	(1) 在宅療養者に実施される日常生活援助に関わることができる。 (2) 訪問において礼儀と節度を保つことができる。					
	関心・意欲・態度	(1) 誠実な態度で主体的に実習に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		35	35	-	-	70
	日常生活援助への関わり		-	-	10	-	10
	訪問マナー・礼節		-	-	10	-	10
	実習に対する積極性		-	-	-	5	5
	自己学習		-	-	-	5	5
合計(点)		35	35	20	10	100	
評価の特記事項	在宅看護論評価表に基づいて評価し、臨地実習指導者の意見も参考にします。実習評価を受けるには、提示した期限内に実習記録を提出することが必須です。						
テキスト	『関連図で理解する 在宅看護過程第2版』正野逸子・本田彰子 メヂカルフレンド社(3,000円) ISBN:978-4-8392-1629-0 『系統看護学講座 在宅看護論』秋山正子・小倉朗子 他 医学書院(2,600円) ISBN:978-4-260-02762-5						
参考書・教材	講義資料						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～10	1日目：学内実習 2日目～9日目：訪問看護ステーションにて実習 実習3日目～8日目の間で1日は、地域包括支援センターにて実習を行う。 10日目：学内まとめ 実習目標や実習内容および方法は、実習要項を参照してください。						
時間外での学修	介護保険制度の知識は必須ですので、しっかりと理解しておきましょう。訪問看護ステーションで同行訪問する前には、在宅療養者が抱える病や施されている医療処置について必ず自己学習を行ってください。自己学習は評価の対象とします。						
受講学生へのメッセージ	病院実習で学んだ知識・技術を最大限に活用し、在宅療養生活を援助する看護について学びを深めてください。また、自宅に訪問させていただくため、病院での実習に比べ緊張が高いと思いますが、笑顔と挨拶を忘れず、看護学生として身だしなみや言葉使いなど良識ある言動がとれるようにしましょう。オフィスアワーは実習前に連絡します。特別な配慮が必要な学生は、担当教員に申し出てください。						

【NA】小児看護学実習		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	清水 美恵・楢原 直美・遠渡 絹代						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	清水美恵：病院看護師10年以上、楢原直美：病院看護師10年以上、遠渡絹代：病院看護師10年以上						
授業内容	保育園・幼保園（以下、保育園とする）では、子どもの関わりを通して、子どもの成長発達の特徴について理解を深める。小児病棟では、入院中の子どもの疾患、治療、成長発達、生活、家族の状況を総合的に理解し、子どもとその家族のニーズに応じた看護実践を展開する能力を養う。						
授業方法	1. 保育園において、3日間、受け持ちクラスの子どもの成長発達を特徴づける遊びや日常生活行動を観察する。4日目に子どもの成長発達をまとめ、発表する。 2. 小児病棟において、健康障害をもつ子どもを受け持ち、看護過程を展開しながら指導者の見守りのもとで看護援助を行う。						
到達目標	知識・理解	【保育園】 各発達期の子どもの成長発達の特徴を理解する。 【小児病棟】 子どもの成長発達を踏まえ、健康障害をもつ子どもとその家族に必要な看護を理解する。 子どもとその家族の権利や尊厳を守るための援助方法と看護師の役割を理解する。 入院・検査・処置・援助等が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、看護の役割について考察できる。					
	思考・判断・表現	【保育園】 子どもとの関わりや学生の発表を通して、子どもの発達を支える大人の役割について考察できる。 【小児病棟】 実施した看護を振り返り、チーム医療における小児看護師の役割について考察できる。					
	技能	【保育園】 子どもの言語・認知発達段階に応じた関わりができる。 子どもを取り巻く危険因子を捉え、安全を保障する関わりができる。 【小児病棟】 子どもの権利を尊重し、安全・安楽を保障する援助ができる。					
	関心・意欲・態度	【保育園】 保育園で過ごす子どもに関心をもち、子どもを幅広く理解しようと積極的に取り組むことができる。 【小児病棟】 子どもとその家族に関心をもち、子どもとその家族がよりよい生活を送ることができるように、積極的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	保育園：記録		15	5	5	5	30
	小児病棟：記録・実践		30	10	5	-	45
	記録・カンファレンス		-	-	-	10	10
	記録・実践（指導者）		10	-	5	-	15
合計(点)		55	15	15	15	100	
評価の特記事項	各実習終了後に実習内容、実習記録、実習態度を評価材料として、小児看護学実習評価表に基づき評価する。なお、評価にあたり、実習指導者の意見も参考にする。						
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 「小児看護学概論・小児臨床看護総論」』奈良間美保 他 医学書院 『系統看護学講座 専門分野 「小児看護学概論・小児臨床看護総論」』奈良間美保 他 医学書院						
参考書・教材	「チームで支える子どものプレパレーション」 及川郁子 監 中山書店 3520円 「根拠と事故防止からみた小児看護技術」 浅野みどり 編 医学書院 4180円 「写真でわかる小児看護技術」 山元恵子 監 インターメディカ 4070円 「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第3版」 浅野みどり 編 医学書院 4180円						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>【保育園】</p> <p>月曜日～水曜日</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設概要の説明により保育環境を理解する。 受け持ちクラスの子どもの関わり、子どもの成長発達を特徴づける遊びや日常生活行動の場面から、身体・運動機能、認知・情緒・社会的発達、事故の危険性を理解する。 <p>木曜日</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内において、受け持ちクラスの子どもの成長発達をまとめ、発表する。 発表により、各発達期にある子どもの成長発達の特徴について理解を深める。 <p>金曜日</p> <ol style="list-style-type: none"> 面接での担当教員の助言や実習内容を振り返り、実習記録用紙に整理する。 実習記録用紙を提出する。 <p>【小児病棟】</p> <p>月曜日</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設概要の説明により小児病棟の特殊性を理解する。 健康障害をもつ子どもを受け持ち、情報収集の内容を分析し、看護の方向性を確認する。 <p>火曜日～木曜日</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護過程（情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価修正）を展開する。 <p>金曜日</p> <ol style="list-style-type: none"> 面接での担当教員の助言や実習内容を振り返り、実習記録用紙に整理する。 実習記録用紙を提出する。 <p>カンファレンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 毎日行う。 テーマ（看護に関する疑問や問題点、共有すべき情報、今後の方向性など）について理解を深める。 						

時間外での学修	<p>1. 既習した小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護演習で学んだ内容を十分復習し、実習に必要な知識を強化する。</p> <p>2. 事前課題（実習要項に提示）に取り組み、理解を深める。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>小児看護学は、入院の場だけでなく子どもが社会の中で問題なく生活できるようにすることが目標です。子どもがどのように成長していくのかを知ることが大切であり、その知識は看護師としてはもちろん、子どもを育てていく大人の役割としても必要であることを学んで下さい。子どもへの影響を考え、感染予防と健康管理に努めて下さい。実習期間中の相談は担当教員が応じます。オフィスアワーは金曜日 16:30~17:30です。</p>

【NA】母性看護学実習		看護学科		3年前期		
		2単位	必修	実習	90時間	
教員	緒方 京・戸村 佳美					
資格・制限等	既修得科目による制限有り					
実務家教員	緒方京（産科病棟における助産師勤務7年・市町村における母子保健事業6年） 戸村佳美（産科病棟における助産師勤務経験9年）					
授業内容	女性にはライフサイクルに応じた年代ごとの特徴的な健康問題があり、さらに成熟期の妊娠・出産に伴って母親および家族は心理的・社会的変化が大きく健康障害をおこしやすい。この授業では既習講義で学んだ母性の特徴を踏まえて、産科病棟および地域において対象およびその家族に応じた母性看護が実践できる基礎的能力を習得するとともに、地域の特徴と看護職による援助の必要性を理解する。					
授業方法	1. 産科病棟において妊産婦・褥婦および新生児を受け持ち、看護過程を展開しながら指導者と伴に看護援助を実施する。またその他に、外来および病棟における看護援助や保健指導の見学を行う。 2. 保健センターにおいて市町村の母子保健活動を見学する。					
到達目標	知識・理解	対象である母子の妊娠・分娩・産褥期および新生児期における健康状態について科学的根拠に基づいて理解できる。				
	思考・判断・表現	対象である母子をとりまく環境や家族役割、心理的特徴を理解し、ニーズに即した個性のある看護援助を実施することができる。また、地域母子保健システムと社会資源について考え、地域において生活する母子およびその家族を支援する必要性を考え、看護職としての母子を支援していく上での自己の課題を述べるができる。				
	技能	周産期における母子および家族の人権を尊重し、プライバシーに配慮した態度で、安全・安楽な看護援助を実施し報告することができる。				
	関心・意欲・態度	周産期医療における看護師としての役割や協働の姿勢を養うことができる。また、積極的に学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	記録物	20	20	10	-	50
	課題レポート	-	10	-	-	10
	実践	-	-	15	-	15
	実習態度・カンファレンス	-	-	-	10	10
	面接	10	5	-	-	15
合計(点)	30	35	25	10	100	
評価の特記事項	母性看護学実習評価表に基づき評価する。尚、実習評価を受けるには、指示した期限内のレポート（実習記録）提出を必修とする。評価にあたり臨地の実習指導者の意見も参考にする。					
テキスト	『系統看護学講座 母性看護各論』森恵美 高橋真理 工藤美子 医学書院 『系統看護学講座 母性看護学概論』森恵美 高橋真理 工藤美子 医学書院					
参考書・教材	必要な資料は実習前オリエンテーションで配布します。また、実習先の施設において自由に閲覧できる参考書を準備します。母性看護援助論・母性看護演習で各自に既に配布されている講義資料は参考資料として使用します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	<p>実習内容と進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習 実習開始前に提示された課題に取り組み、実習に臨む。 産科病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 妊産婦および新生児を受け持ち、看護過程（情報収集・アセスメント・計画立案・実施・評価修正）を展開する。 以下の妊産婦および新生児との関わりや看護ケアを見学、実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 妊婦への看護ケア（母親学級、NSTモニター装着、レオポルド触診法） 産婦への看護ケア（分娩各期の看護、胎児付属物の観察・計測） 新生児への看護ケア（出生直後の観察・計測、点眼、沐浴、哺乳） 褥婦への看護ケア（授乳指導、退院指導、沐浴指導、育児技術習得への指導） その他（NICU見学、産後2週間健診、産後1ヶ月健診） カンファレンスにより学びを共有する。 <ol style="list-style-type: none"> 基本的には毎日実施し、一日の学びと翌日の課題を明確にする。場所・時間については当日決定する。 カンファレンステーマはその都度決定する。実習最終日のカンファレンスでは「実習4日間の学びと今後の実習への課題」について話し合う。 保健センター実習 <ol style="list-style-type: none"> 母子およびその家族と関わり、市町村における母子保健事業および看護の実際を見学する。見学する事業は、乳幼児健診・家庭訪問・乳幼児相談・母子健康手帳交付などである。 母子保健事業以外に、女性が活用できる市町村保健サービスを見学する。 カンファレンスにより学びを共有する。 <ol style="list-style-type: none"> 基本的には毎日実施し、一日の学びと翌日の課題を明確にする。場所・時間については当日決定する。 カンファレンステーマはその都度決定する。家庭訪問や育児相談など母子保健事業で体験した事例については、詳細を具体的に提示し、カンファレンスで学びを深める。 学内実習 臨地実習で学んだことを記録に整理してまとめ、実習最終日に記録を提出する。 					
時間外での学修	<ol style="list-style-type: none"> 実習に必要な基礎的知識（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護に関する知識、地域母子保健に関する知識）の確認・強化を行う。 母性看護における看護技術の学内演習に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> 妊婦への看護（レオポルド触診法、腹囲と子宮底長の測定、胎児心音聴取） 褥婦への看護（子宮復古の観察方法、授乳のポジションと介助方法） 新生児への看護（沐浴、バイタルサイン測定、身体計測、全身の観察） 既習した母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護演習で学んだ内容を十分復習する。 					
受講学生へのメッセージ	女性が新しい命を生み出す逞しさと神秘、新生児の生命力を全身で感じられる実習になることを期待しています。オフィスアワーは実習学内日の9時～12時小児母性看護実習室とします。特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。					

【NA】精神看護学実習		看護学科		3年通年			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	酒井 和美・北 恵都子						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	酒井和美（臨床看護師32年） 北 恵都子 森 浩司						
授業内容	既習した知識・技術を活用して、こころを病む人とその家族への看護過程を展開して精神看護の基礎的な実践力を習得する。						
授業方法	精神科病院において対象者との治療的対人関係を形成発展させ、対象者の看護問題を把握し立案した看護計画に沿った看護援助を行う。						
到達目標	知識・理解	対象の発達段階、社会的背景、健康状態がアセスメントできる。					
	思考・判断・表現	アセスメントに基づいた個別的な看護計画の立案・実践・評価ができる。治療の場で対象と看護師との治療的関係が捉えられる。					
	技能	実習記録を通し患者の全体像が把握でき、適切な看護提供が行える。対象を取り巻く保健医療福祉チームの役割が理解でき、協働できる。					
	関心・意欲・態度	看護専門職業人としての役割を認識し、真摯に実習に取り組める。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	知識・理解		15	10	5	-	30
	思考・判断・表現		15	10	5	-	30
	技能		5	10	10	-	25
	関心・意欲・態度		-	-	-	10	10
	事前学習課題		5	-	-	-	5
合計(点)		40	30	20	10	100	
評価の特記事項							
テキスト	『系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学』代表 武井麻子 株式会社 医学書院 ISBN:978-4-260-02773-1						
参考書・教材	精神科看護ケア関連図 編著 川野雅資 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-3089-5 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 編集 菅間真美 株式会社照林社 ISBN978-4-7965-2341-7						
内容							
実施回	授業内容・目標						
10日間 (2週間)	精神科病院において、受け持ち患者を対象として看護過程を実践する。 実際の治療の場で、患者・看護師の治療的関係を構築する。 対象を取り巻く精神保健医療福祉チームを理解し、協働する。 授業方法 「課題」 ・ 毎日の実習内容はその日のうちに記録し翌日に提出する。 ・ 施設における看護の目的・役割・対象者の生活支援について学んだ内容を整理する。						
時間外での学修	既習した精神疾患とその症状、精神科病院での入院形態・関連法規を復習してください。						
受講学生へのメッセージ	精神障害者の「生きにくさ」を理解し、看護がどのように関われば今より質の高い生活が獲得できるのか考え、積極的に臨地実習に取り組んでください。 実習中に疑問に感じたことや分からないことがあれば適宜質問してください。 特別な配慮が必要な学生は担当教員に申し出てください。						

【NS】救急看護・災害看護		看護学科		3年前期		
		1単位	必修	講義	15時間	
教員	和田 孝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	和田 孝 看護師歴30年、救急看護分野15年、日本DMAT（災害医療派遣チーム）隊員12年					
授業内容	救急および災害時の状況特性、看護の役割について理解する。具体的には、救急看護では救急患者のアセスメント、救急疾患の理解と治療処置、心肺蘇生法（一次救命処置）の知識と技術を、講義と実技で理解します。災害看護では、災害と健康障害の特徴および災害医療・災害看護の現状と看護職の役割を理解し、災害支援活動およびトリアージ、応急処置、必要な技術に理解します。					
授業方法	救急患者のアセスメント、救急疾患の理解と治療処置については、画像や事例を用いて理解できるように進めていきます。心肺蘇生法は、講義と実技で修得します。災害看護・災害医療については、画像や過去の事例を用いて理解できるように展開していきます。災害トリアージについては、机上シミュレーションで学習します。					
到達目標	知識・理解	救急医療・救急看護の特性と役割、現状について理解でき、救急患者に起こりうる急性症状の身体所見と治療処置について理解できる。 災害看護・災害医療の基礎的知識・災害サイクルに応じた看護支援活動を理解できる。				
	思考・判断・表現	救急受診する患者・家族の精神的状況を理解して問題解決に向けたケアができる。 災害時に傷病者を適切にトリアージ（緊急度）する判断能力を修得することができる。				
	技能	エビデンスに基づいた一次救命処置（BLS）が実施できる。 災害時のSTART式トリアージ法を理解して実施できる。				
	関心・意欲・態度	救急医療の現状問題を理解のもと、どのように地域社会と連携することが患者・家族のためになるか興味を持ち学修に取り組むことができる。 災害発生時に看護師として何を優先して活動するのか考え興味を持つことができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	60	10	-	-	70
	OSCE（客観的臨床能力試験）	-	-	10	10	20
	災害机上シミュレーション	-	5	-	5	10
	合計(点)	60	15	10	15	100
評価の特記事項						
テキスト						
参考書・教材	必要な資料は、事前に資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	救急医療の現状、救急医療体制、救急看護の特徴と役割について考える [課題(予習)]現在の救急医療・看護について問題点を考える(4h)					
2	救急患者の急性期症状と看護ケア（呼吸器系、循環器系、中枢神経系、体温異常） [課題(復習)]呼吸器系、循環器系、中枢神経系の解剖学の復習(4h)					
3	救急患者の急性期症状と看護ケア（消化器系、体液・代謝異常、外傷、熱傷、中毒） [課題(復習)]消化器系の解剖学の復習(4h)					
4	災害の定義、種類、災害医療の特徴（CSCATTT）、災害サイクルに応じた看護支援、災害時に特徴的な病態 [課題(予習)]過去に発生した災害について情報収集(4h)					
5	災害トリアージ机上シミュレーション（グループワーク） [課題(復習)]災害トリアージ、CSCATTTの復習(4h)					
6	災害トリアージ机上シミュレーション（グループワーク） [課題(復習)]災害トリアージ、CSCATTTの復習(4h)					
7	一次救命処置の手順とエビデンス [課題(予習)]一次救命処置の手順内容の予習(4h)					
8	一次救命処置の実際（演習） [課題(予習)]一次救命処置の動画を閲覧しておく(2h)					
時間外での学修	災害机上シミュレーションでは、災害トリアージとCSCATTTを理解していることを前提にグループワークを進めていきます。復習をしておいてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	救急患者は、病棟や施設に関係なく24時間発生します。すべての看護師は、健康状態が急激に悪化した人を救うための知識や技術を習得しておく必要があります。また、いつ起こるかかわからない大規模災害時に病院・施設でどのような行動をとるのかグループワークで楽しく学びましょう。 特別な配慮が必要な学生は申し出てください。 オフィスアワーは、講義前後の休み時間に教室で質問等を受付けます。					

【NS】終末期看護論		看護学科		3年前期			
		1単位	選択	講義	15時間		
教員	棚橋 千弥子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	臨床看護師16年						
授業内容	終末期の捉え方や終末期にある対象者およびその家族に対する看護のあり方について学ぶ。また、学習者自身が「死」について考える機会を設けることによって、終末期を迎えた対象者の「その人らしさ」を考えた援助とは何かを学んでいきます。						
授業方法	講義が中心ですが、事例学習、ディベートなどを通して自己の考えを表現できるような授業展開にしています。						
到達目標	知識・理解	終末期とは、どのような時期であるかを理解できる。 終末期におとずれるであろう様々な苦痛に対して理解することができる。					
	思考・判断・表現	その人らしさとは何であるかを理解することができ、それらを考慮した看護を考えることができる。					
	関心・意欲・態度	終末期看護に関心を示し、主体的に学習に臨むことができる。さらに終末期看護に対する自己の考えを表出することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		50	10	-	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	発表(グループ発表含む)		-	20	-	10	30
	合計(点)		50	30	-	20	100
評価の特記事項							
テキスト	『系統看護学講座 別巻 緩和ケア』医学書院						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス 終末期の捉え方 [準備]成人看護学概論で学んだ終末期の概要について復習しておくこと(1h)						
2	終末期にある対象者の身体的・心理的特徴を理解する。 終末期にある対象者の意思を尊重するコミュニケーション技法について学ぶ。 [準備(予習)]テーマについて予備知識をまとめておいてください。(1h) [課題(復習)]特に対象者の心理的特徴について十分に理解しておいてください。(1h)						
3	スピリチュアルケアの基盤となる考え方を理解できる。 スピリチュアルペインの理解 [課題]テーマについての学習を基に自己の考えをまとめておいてください。(1h)						
4	事例を通して終末期医療・看護を考える(がん患者を対象として) アセスメント、看護上の問題、看護目標 [準備]事例を事前に提供しますので、対象者の理解を深めておいてください。(1h)						
5	事例を通して終末期医療・看護を考える(がん患者を対象として) アセスメント、看護上の問題、看護目標 [課題]不足している考え方について、追加・修正しておいてください。(2h)						
6	終末期にある対象者に対するチーム医療の必要性について理解する。 看取りのケア、臨死期のケアについて理解する。 [準備]チームに属する可能性のある職種について学習しておいてください。(0.5h)						
7	安楽死、尊厳死についてグループ毎に意見交換する。 [準備]語句の意味を理解しておくこと。 事故の考えを表現できるようにまとめておくこと。(1h)						
8	まとめ。最終レポート [終末期にある対象者の看護における看護師のストレスについて考えをまとめておいてください。]						
時間外での学修	終末期に対する考え方は千差万別です。それぞれの講義後は項目について、自分なりの考えをまとめておくようにしましょう。特にグループ討議時は事前の学習が必要不可欠になってきます。従って、予習・復習を含め30時間程度の自己学習が必要になってきます。						
受講学生へのメッセージ	人生の終末期に関わることは、困難なことが多くありますが、特別な場合を除き、誰しにも平等におとずれるであろう終末期について学ぶことは、今後の生き方を考える機会にもなると思います。特別な配慮が必要な学生は担当教員に申し出て下さい。尚、オフィスアワーについては事前に連絡いただければ調整します。						

【NS】病態生理学		看護学科		3年前期			
		1単位	選択	講義	15時間		
教員	佐々 敏						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院検査技師・33年						
授業内容	病態生理学とは重要な疾病の成り立ちとその病態を理解する学問です。学生諸君が学外実習に入る前に、比較的経験する疾患を整理して実習に臨めるように配慮します。						
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。看護に必要な知識を理解し、主体的に学べるように、看護の過去国試問題をあげながら授業を進める。また、学生が積極的に授業に参画してほしいので、対話的な学習活動を心がける。						
到達目標	知識・理解	看護師に必要な病態生理学を理解する。					
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切に説明することができる。					
	技能	図や表から病態生理に関連する内容の理解ができる。					
	関心・意欲・態度	自分の理解を高めるために、独自のサブノットを作成する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	10	5	-	65
	発表・レポート		5	5	5	10	25
	自己評価		5	-	-	-	5
	受講態度		-	-	-	5	5
合計(点)		60	15	10	15	100	
評価の特記事項	自己評価は学習成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。						
テキスト	『病態生理学』田中 越郎 医学書院(2,300円)ISBN:978-4-260-02183-8						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、身体のしくみの系統である、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系および内分泌、免疫等についての理解を再確認して関心を高める。 [課題(復習)] 次回の授業までに課題テーマをサブノットにまとめる。(4h)						
2	循環器疾患の病態と治療についての理解を再確認して関心を高める。 [課題(復習)] 次回の授業までに課題テーマをサブノットにまとめる。(4h)						
3	呼吸器疾患の病態と治療についての理解を再確認して関心を高める。 [課題(復習)] 次回の授業までに課題テーマをサブノットにまとめる。(4h)						
4	消化器疾患の病態と治療についての理解を再確認して関心を高める。 [課題(復習)] 次回の授業までに課題テーマをサブノットにまとめる。(4h)						
5	泌尿器・血液疾患の病態と治療についての理解を再確認して関心を高める。 [課題(復習)] 次回の授業までに課題テーマをサブノットにまとめる。(4h)						
6	神経・内分泌疾患の病態と治療についての理解を再確認して関心を高める。 [課題(復習)] 次回の授業までに課題テーマをサブノットにまとめる。(4h)						
7	免疫疾患の病態と治療についての理解を再確認して関心を高める。 [課題(復習)] 次回の授業までに課題テーマをサブノットにまとめる。(4h)						
8	まとめと発表 [課題(復習)] 授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う(4h)						
時間外での学修	[課題(復習)]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので、授業外で確実に学修を進めましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして、看護師に重要な疾患を楽しく学べるように努力します。 オフィスアワーは岐阜協立大学8号館3階8318研究室、金曜日の16:00～17:00にきてください。						

【NA】看護研究		看護学科		3年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	我部山 キヨ子・緒方 京・長谷川 真子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	我部山キヨ子、緒方京、長谷川真子 全員看護職10年以上						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究の定義、種類、倫理、一連のプロセスを理解する。 ・自分の興味がある研究課題について、テーマの絞り方、文献検索、文献のまとめ方などを学び、文献研究としてまとめて提出する。 ・量的研究に必要なデータ処理の方法や図表の作り方を、エクセルを用いて理解する。また、研究発表時に必要な発表資料のまとめ方を、パワーポイントを使用して理解する。 						
授業方法	最初は講義形式で、看護研究の概要、方法論等を学ぶ。次に演習形式で文献研究の進め方の実際を学び、論文としてまとめて提出する。						
到達目標	知識・理解	研究の目的や方法論を理解する。					
	思考・判断・表現	看護文献に興味をもって、批判的姿勢で読むことができるようになる。					
	技能	エクセルやパワーポイントの使用方法を理解する。					
	関心・意欲・態度	看護研究の必要性や面白さを理解する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	研究テーマの選択		10	-	-	10	20
	文献の収集		10	-	-	-	10
	文献のレビュー		-	20	-	-	20
	論文の作成		-	25	-	10	35
	エクセル・パワーポイントの演		-	-	15	-	15
合計(点)		20	45	15	20	100	
評価の特記事項	自分の選択した課題に対して、適切な研究論文を5つ以上選択し、文献検索のまとめの表にまとめて、論文とともに提出する。						
テキスト	『系統看護学講座 看護研究』坂下玲子他 医学書院(2,400円) ISBN:978-4-260-02182-1						
参考書・教材	研究課題に合わせて、講義中に紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	看護研究の目的、意義、歴史						
2	看護研究のテーマの絞り方 [課題(復習)]自分の興味があるテーマについてレポートにまとめる(2h)						
3	文献検索と文献レビュー [課題(復習)]上記テーマについて文献を調べてレポートにまとめる(6h)						
4	調査研究の定義、データ収集方法、データの種類と分析 [課題(復習)]調査方法について調べる(4h)						
5	事例研究の定義、特徴、長所と短所 [課題(復習)]事例研究の論文を探して読む(2h)						
6	研究計画書と研究論文のまとめ方 [課題(復習)]研究計画書及び研究論文の書き方について学修する。自分の興味がある、あるいはより深く調べたい研究課題を取り扱っている論文を収集する。(2h)						
7	文献の整理 [課題(復習)]収集した研究論文を、文献整理シートに沿って整理する(2h)						
8	データ分析1(エクセルの使用法1) 40人ずつで行う [課題(復習)]出題に対してエクセルを用いてレポートを作成する(3h)						
9	データ分析2(エクセルの使用法2) 40人ずつで行う [課題(復習)]出題に対してエクセルを用いてレポートを作成する(3h)						
10	効果的なプレゼンテーションのために(パワーポイントの使用法) 40人ずつで行う [課題(復習)]出題に対してパワーポイントを用いてレポートを作成する(3h)						
11	文献レビューの演習1 [課題(復習)]自分のテーマに関連する文献の収集を継続しながら、文献整理シートに沿って、文献を整理する(2h)						
12	文献レビューの演習2 [課題(復習)]自分のテーマに関連する文献の収集を継続しながら、文献整理シートに沿って、文献を整理する(2h)						
13	文献レビューの演習3 [課題(復習)]整理した文献をもとに、文献研究の形式にそって論文を作成する(2h)						
14	文献レビューの演習4 [課題(復習)]整理した文献をもとに、文献研究の形式にそって論文を作成する(3h)						
15	文献レビューの演習5 [課題(復習)]整理した文献をもとに、文献研究の形式にそって論文を作成する(3h)						
時間外での学修	看護実践および健康に関する疑問の中で、自分が興味を持った、かつ聞き手が興味を持ちそうなテーマを選択しておいてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	看護研究の論文を深く分析的に読むことによって、事象をより深く考える習慣をつけましょう。また、看護が必要とするデータや資料をまとめて解析する能力を身につけましょう。オフィスアワーは15:00～16:00、場所はA 313研究室です。						

【NA】総合看護論		看護学科		3年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	我部山 キヨ子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	臨床助産師・看護師勤務10年以上						
授業内容	専門基礎科目・専門科目・発展科目を振り返り、既習内容を概観するとともに新しい知識や現在の課題について発展的に学びます。全領域の教員がオムニバス形式で担当し、国家試験対策も含めて講義を行います。学生自身で、知識がどの程度身についているかを確認するとともに、思考を整理し、不足を補う機会となるよう教授します。						
授業方法	講義形式で進める。						
到達目標	知識・理解	各科目・領域で求められる基本的な知識・技術を理解できる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		100	-	-	-	100
	合計(点)		100	-	-	-	100
評価の特記事項							
テキスト	『『従来使用している教科書全般』』						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	解剖生理学・病態学 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
2	病態学・薬理学 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
3	基礎看護学：看護の基礎となる概念、基礎看護技術 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
4	看護管理、看護倫理、医療安全 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
5	成人看護学 成人期における健康の保持増進、クリティカルケア [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
6	成人看護学 慢性期看護、がん看護、機能障害別看護 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
7	成人看護学 機能障害別看護 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
8	小児看護学 成長・発達と健康増進のための看護 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
9	小児看護学 健康障害のある小児と家族の看護 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
10	母性看護学 ライフサイクル各期における看護、法律・制度 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
11	母性看護学 周産期における看護 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
12	精神看護学：主な精神疾患と看護、法制度 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
13	在宅看護論：訪問看護の制度、在宅療養者の状態・状況に合わせた看護 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
14	救急・災害看護・公衆衛生：救急時の看護、災害サイクルと看護、公衆衛生と看護 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
15	老年看護学：老年看護の特徴、保健医療福祉制度 [課題(予習・復習)]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)						
時間外での学修	国家試験に向けての学習を進める中で、不明瞭な点を整理しておく。 時間外での学修 各講義終了後には必ずその日のうちに学習内容の復習をする。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	卒業前の最後の科目です。自主的に取り組み、問題解決・弱点克服の場としてください。 オフィスアワーは各担当教員の時間（別途通知）とします。						

【NA】看護統合実習		看護学科		3年後期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	馬場 貞子・古田 桂子・安藤 洋子・大澤 伸治・北 恵都子						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	馬場 貞子(病院看護師・40年)・古田 佳子(病院看護師・10年)・野網 淳子(病院看護師・7年)						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・病院及び病棟における看護管理の実際を学ぶ。 ・これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場での実習を通して看護チームの一員としての役割を理解し、看護実践能力を身につける。 ・病院組織における看護部の位置づけと役割・責務について理解し、病棟管理の実際を学ぶ。 ・生涯にわたり看護師としての成長のために必要な要素を学ぶ。 						
授業方法	大垣市民病院および博愛会病院の2施設で実習。						
到達目標	知識・理解	病院組織における看護部の組織と機能、さらに病棟管理の実際について理解する。					
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の対象の多様なニーズに対して、優先順位と時間に配慮しながら看護援助の計画を立案できる。 ・実習を振り返り、チーム医療の中で看護の果たす役割と求められる連携のあり方について考えを述べることができる。 ・看護職の果たす役割と責任について考え、自己の課題を明確にすることができる。 					
	技能	複数の対症の多様なニーズに対して、チームメンバーと協働して看護援助を実践できる。					
	関心・意欲・態度	対象を尊重し守秘義務の厳守、主体的な実習の取り組みかぎできる。また、指示された時間や方法に則って行動できる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		25	30	-	-	55
	看護実践		-	-	25	-	25
	カンファレンス参加状況		-	-	-	5	5
	実習態度		-	-	-	15	15
	合計(点)	25	30	25	20	100	
評価の特記事項	統合実習要項の評価項目によって実施する。						
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 看護の統合と実践(1)：看護管理』医学書院 看護の統合と実践〔1〕看護管理』メディカ出版・医学書院						
参考書・教材	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理』医学書院 看護管理および受け持ち患者への援助に関連するもので、これまでの講義・演習・実習で使用した教科書、参考書、配布資料、その他必要な文献						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	1.実習時期 実習期間 2週間 2.実習内容 1) 病院実習 <ul style="list-style-type: none"> ・病院および病棟における看護管理の実際の説明を受け、病棟における管理の実際を見学する。 ・チーム医療における看護の役割と責任に着いて学ぶ ・看護チームに参加し、病棟の看護活動および看護の継続性について見学する。 ・受け持ち患者2名の優先順位を考慮した援助を実施する。 2) 学内実習 <ul style="list-style-type: none"> ・実習初日：看護管理に関する基礎的知識取得のため、課題学習をグループワークで実施、その成果を発表し全体で共有する。 実習施設ごとに事前準備と学習 ・実習最終日：グループ・カンファレンスおよび事前学修課題の更なる学びをグループでまとめ発表し全体で共有する。 						
時間外での学修	看護を組織・管理の視点から学習することで、テキストや参考書を読んで理解を深めてください。複数の患者に援助を実施します。既習の看護過程の展開を十分復習し、事前に技術練習を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	本実習は3年間の学びの総括です。これまで学修を振り返り、主体的に自ら責任を持って行動することを期待します。質問や相談等がある場合は、早めに担当教員に報告・連絡・相談してください。オヒスアワーとしては、各実習場所の担当教員が対応します。科目担当教員に相談や質問があるときには、前もって連絡を入れてください。(場所、時間は適宜決定します。)						